

なし

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/617

第三章 所有權

(理由) 本章ハ既成法典財産編第一部第二章ニ當レリ然レトモ其規定ニ範圍ニ至リテハ二者大ニ相同
シカラサルモノアリ左ニ之ヲ列數セシ

一、本條ニ於テハ第一節ニ所有權ノ限界ナルモノヲ置き所有者ハ如何ナル範圍内ニ於テ其權利ヲ行
フコトヲ得ルカラ明カニシ以テ暗ニ所有權ノ定義ヲ示セリ而シテ從來法律上ハ地役ト稱スルモノ
ノハ畢竟法律ヲ以テ或ル土地ノ所有權ヲ保護セシカ爲メニ他ノ土地ノ所有權ノ範圍ヲ縮小スル
ニ過キサルモノナルカ故ニ之ヲ特別ノ物權トシテ視シヨリハ寧ロ法律ヲ以テ所有權ノ限界ヲ定
メタルモノト視ルヲ妥當ナリト信シ本條ハ獨逸國ニシテテグロ等ノ法律ニ散見セザラ本章

ニ規定シヨリ

二、既成法典財産編第四十二條ニハ所有權ハ本條及ヒ財産取得編ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依
リテ取得シ保存シ及ヒ轉付スルノ冒ヲ揭ラルト雖モ本條ニ於テハ既ニ物權編總則中ニ物權取得
ノ原則ヲ定メ二七六、二七七、二七八(既成法典ノ如ク別ニ特別ノ取得方法ヲ規定スル財産取得
編ナルモノヲ置カス物權ノ取得ニ關スル規程ハ之ヲ物權編中ニ掲ゲ其主トシテ人權ノ取得ニ關
スルモノハ之ヲ債權編中ニ掲ゲルコトセラルヲ以テ先右添附等ノ如キ所有權ノ取得ニ特別ナル
モノハ之ヲ本章中ニ掲ゲルコトセリ是レ特ニ第二節ヲ置きテ所有權ノ取得ト題シタル所以
ナリ

三 既成法典財産編第四十二條ニハ所有權消滅ノ原因ヲ列舉セリ是ハ外國ニモ其例ナキニ非スト雖モ最多數ノ國ハ此列舉ノ主義ヲ採ラス今右條文ニ列舉セルモノハヲ觀ルニ其第二號第二號及ヒ第三號ノ如キハ皆取得ニ伴フ消滅ニシテ既ニ取得ノ事ヲ規定セハ復消滅ノ事ヲ規定スルノ要ナキモノナリ其第四號ニ掲ケタル場合ノ多クハ既住ノ過リテ所有權ヲカリシト觀ルヘキモノナルカ故ニ之ヲ以テ所有權ノ消滅トスルヲ得ザルヘク其他ノ場合ハ必ズ取得ニ伴フヘキ消滅ナルカ故ニ別ニ之ヲ規定スルヲ要アラサルヘシ而シテ其第五號及ヒ第六號ハ當然言フヲ疎ササルナミナラス一切ノ權利ニ就テ同キ所ナルルヲ以テ特ニ之ヲ所有權ノ章ニ於テ明言スルヲ要セス以上ノ理由ニ依リ第四十二條ハ全然之ヲ削除セリ

四 本案ハ時効ヲ以テ取得及ヒ消滅ノ方法ト認メタレトモ仍前二項ノ理由ニ因リ財産編第四十二條ノ如キ法文ヲ設クコトナレ 既成法典ハ時効ヲ證據アリトスルヲ主義ヲ採リナカラ仍該條ノ如キ規程ヲ挿入セルハ實ニ自家撞著ノ甚レキモノト謂フヘシ

五 本章ニ共有ノ一節ヲ置キテ既成法典財産編第三十七條乃至第三十九條及ヒ財産取得編第四百六條以下ノ規定ヲ網羅レ以テ共有ニ關スル一切ノ規定ヲ包括セシメタリ但財産編第四十條ノ規定ハ純然タル共有ノ問題ニ非サルヲ以テ之ヲ第一節中ニ挿入スルコトトス

六 財産編第二百六十五條ニハ所謂法律上ノ地役ナルモノニ關スル諸規則ヲ國府縣ノ如キ公法人ノ所有スル財産ニモ適用スル旨及ヒ其例外ノ場合ヲ掲ケタルトモ是レ或ハ言フヲ待タサルコトトス

タリ或ハ特別法ノ規定ニ讓ルヘキモノタルヲ以テ本案ニハ之ヲ削除セリ

第一節 所有權ノ限界

(理由) 本節中ニハ所有者ノ權利ヲ掲ケ兼テ所謂法律上ノ地役ナルモノヲ規定セリ其理由ハ既ニ章首ニ於テ之ヲ陳ヘタルヲ以テ復茲ニ贅セス

第二百六條

(理由) 本條ハ財産編第三十條ニ左ノ修正ヲ施コシタルモノナリ

一 定義ノ體裁ヲ捨テ規定ノ實體ヨリシテ所有權ノ何タルヲ知ラシム

二 原文第二項ニハ所有權ハ法律又ハ合意又ハ道言ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ制限スルコトヲ得ストシテ恰モ所有權ハ本素無制限ノモノナルヲ法律又ハ合意等ヲ以テ特ニ之ヲ制限スルカ如キ意ヲ表セリ然レトモ元來權利ノ範圍ハ總テ法律ニ依リテ定マリ以テ法律ノ制限内ニ於テノ自由ニ在スルコトヲ得ルモノニシテ所有權ト雖モ亦此性質ノモノニ外ナラス唯所有權ハ各種ノ權利中最モ廣大ナリトイフニ過キサル耳故ニ本案ニ於テハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ云フ曰ヒ以テ此義ヲ明カニセリ

三 原文ニハ法律トアリタルヲ法令ト改メタルハ往々憲政命令ノ如キモノヲ以テ所有權ノ作用ヲ制限スルノ必要アルヘキカ故ナリ或ハ單ニ法律ト曰フモ解釋ノ據リテ其中ノ法律命令ノ二者ヲ包含セシムルヲ得レトモ既ニ憲法ニ於テ法律ナル語ニ一定ノ意義ヲ附シタル以上ハ此ノ著ハ成ヘ

タ明カニ之ヲ區別スルコトヲ要ス草案ニハ初め法律ニシトノミ云ヒタリシカ民法發布後、改廢シタルモノニハ法令ニシテ改正セラルベト改メオレリ

四、合意又ハ遺言ヲ省キタルハ他アレ合意又ハ遺言ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ畢竟所有者カ其所有物ヲ使用、收益又ハ處分スルノ方法ヲ過シサレハナリ

既成法典財產編第三十一條乃至第三十二條ノ規定ハ土地權ノ用法其他、法令ニ由リテ自カノ明カナルヘキモノニシテ特ニ之ヲ民法ニ掲グルノ要ナリ且之ヲ掲グルルトキハ却テ他ノ不便ヲ醸スル虞アルヲ以テ此等ノ條文ハ總テ之ヲ削除セリ

同編第三十六條ノ規定ハ占有權及ヒ時效ニ關スル規定ニ因リテ自カラ明カナルカ故ニ亦之ヲ削除セリ

第二百七條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第三十四條ノ相共意義ヲ同シウス唯原文ニハ適用ヲ掲ケ本條ニハ原則ヲ掲グルノ差アルヲミ此修正ヲ施コレタル所以ハ他ナレ原則ヲ掲グルニ非サレハ必要ナル總テノ場合ヲ悉ク包含セシムルコト能ハサルカ故ナリ例ハ他人カ家中ニ工事ヲ施コスニ當リ其下ニアル土地ノ所有者ハ之ヲ妨ケ得ヘキコト當然ナルニ原文ニハ此場合ヲ脫漏セルカ如キハ蓋シ其一例ナリ

第二百八條

同條第三項第四項及ヒ第三十五條ノ規定ノ敢テ明文ヲ要セサルヲ以テ之ヲ削除セリ

(理由) 本條ハ既成法典財產編第四十條ノ規定ノ大差ナレ唯各自一部分ノ所有スルトキハ之ヲ處分レ又之ニ關スル費用ヲ一人ニテ負擔スルハ當然ナルヲ以テ條文中ニ之ヲ明揭セサルコトトシ却テ共用部分ノ共有ニ屬スヘキコト并ヒニ其費用負擔ノ割合ノ明文ニ掲グル必要ト信シタル本條ノ如ク修正シタルナリ

第二百九條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第一百十五條乃至第二百十七條ヲ併セテ一條トシ之ヲ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列敘セシ

一、原文ニハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ハ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ナキ距離ニ於テ云々ト曰ヘルモ疆界又ハ其近傍ニ於テ築造又ハ修繕スル爲メ必要ナルトキト曰ハ、却テ證明ナリト信シタルヲ以テ右ノ如ク之ヲ修正シタルナリ

二、原文第二百十六條第一項ノ規定ハ不用ノ規定ナリト信シタルヲ以テ之ヲ削除セリ蓋シ季節ノ如何ニ拘ハラス築造又ハ修繕ノ必要ヲ生スルコトアリ又隣地ノ所有者又ハ占有者ノ不在ノ場合ニ於テ其隣宅ヲ特ニ難キ事情ニキヲ保セム是レ蓋シ同項ニ於テ但書ヲ加ヘタル所以ナラシ本條ハ之ニ反對ノ精神ニアラサルモ苟モ既ニ必要ノ範圍内ニ於テ此權利アルモノトスル以上ノ所有者ハ其必要アリ他人ノ收權ヲ害スヘキ季節ニ於テ又ハ隣地ノ所有者若シハ占有者ノ不在ノ場合ニ於テ隣地ニ立入ルコトヲ得サルハ素ヨリ論ヲ特ニサレナリ又之ニ反シ若シ其必要アル

ニ於テハ季節ノ如何ヲ省ミ又ハ隣地ノ主人ノ邸宅ヲ特ニスレド隣地ニ立入ルコトヲ得ルモノトスヘキコト亦勿論ナリ故ニ本條ノ如ク規定スルトキハ甚ダシク原文ノ意ヲ變ヒシテ而モ無用ノ長文ヲ省クコトヲ得ルナリ

第二百十條

(理由) 本條ハ既成法典附屬編第二百十八條ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルノ殊ニ袋地ナル名稱ノ寧ろ學者ノ用語ニ委キ法文ニ用ルサルヲ可トシテ之ヲ除キタリ

第二百十一條

(理由) 本條ハ既成法典附屬編第二百十九條ヲ改正シタルモノナリ原文ニハ袋地ノ利用又ハ其住居人ハ需用ハ爲メ定期又ハ不斷ニ車輛ヲ用ヘルコトヲ要スルトハ道路ノ幅ハ共用ニ相應スルコトヲ要スト曰ヒ又通行ノ必要又ハ其方法及條件ニ付當事者ノ協議ハハルトハハ敷料所ハ成ルハ袋地ハ需用及ヒ通行ノ便利ノ承役地ハ損害ノヲ與ヘスルハハトヲ要ス曰ヘリ詳細ノ適用ニ涉リ却テ大體ヲ失スルノ嫌アルヲ以テ本條ハ之ヲ改メテ單ニ其原則ヲ示スコトセリ

本條第二項ヲ設ケタルハ他ノ他ノ權アリト云ヒ難ク然レド其必要アルニ若シ其止ニ道路ヲ設ケタルコトヲ得サルトキハ往來通行權ノ行使シ得サルノ結果ヲ生スルヲ計ラセザルニ是レ特ニ第二項ヲ設ケテ此必要ニ應ジタル所以ナリ

第二百十二條

(理由) 本條ハ既成法典附屬編第二百十條第二項及ヒ第三項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘ之ヲ簡明ニシタル

同編第二百二十一條及ヒ第二百十二條ハ之ヲ削除シテ並ニ袋地ナルカ故ニ通行權アルモノニレテ袋地タルコト止メハ通行權ノ自カラ消滅シ隣ア賃金ノ義務モ亦消滅スヘキハ論ヲ俟タズ若シ又袋地タルコト依然タルニ所有者カ通行權ヲ不用ナリトシテ之ヲ拋棄シ之カ爲メニ其袋地ハ永久ニ他ニ通過セサルトキハ全ク天物ヲ暴露スルノ虞アルヲ以テ通行權ハ決シテ所有者ノ任意ニ之ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトスヘキナリ隣ア賃金ノ義務モ亦永久ニ之ヲ免カルルヲ得サルモノトナル或ハ一時全ク通行セサルカ爲メニ隣地ニ直接ノ損害ヲ及ホサルコトアルヘシト雖モ右ノ通行權ノ存スルカ爲メニ隣地ノ價値ニ必ラス多少ノ影響ヲ及ボスヘキヲ以テ此場合ニ廢テモ亦之ニ相當スルノ賃金ヲ拂フヘキコト勿論ナリ若シ此等ノ賃金ニ付キ特ニ契約ヲ爲ストキハ單ニ債務者ノ一方ノ意志ヲ以テ其賃金ノ義務ヲ免カルコト能ハサルハ言フヲ待タズ

第二百二十二條第一項ノ不必要ナルハ最テ喋々ヲ要セス全ク契約自由ノ結果ニ過キサレハナリ又同條第二項ノ規定ハ鷄モスレハ契約者ノ意思ニ反スルコトアルキヲ以テ寧ろ全條ヲ削除スルノ愈レ

ルニ如カス

第二百十三條

第二百十四條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十三條ト其意義ヲ同レウス同條ノ未定ヲ削リタル理由ハ既ニ前條ニ於テ之ヲ説明シタルヲ以テ復録ス 貴セス

一、原文ニハ低地ノ所有者ハ高地ニハ、流下スルニ云々ト云ヘルモ土地ニ高低ナキ場合ト雖モ、溢水ノ自然ニ流レ來ルコトヲ妨クヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ獨逸民法第一議會草案ニ倣ヒテ本文ノ如ク改メタリ

二、原文ニハ雨水及ヒ泉水ト云ヘルモ池水ノ溢レ來ルカ如キヲモ妨クヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ本案ハ外國法ノ多數ノ例ニ倣ヒテ單ニ水ト改メタリ

三、原文ニハ雨水及ヒ泉水ヲ承クハ、義務アリト云ヘルモ其意味タルヲ決シテ此水ヲ承クルカ爲メニ特ニ工事ヲ施ス等ノ義務アリト云フニ非スシテ唯之ヲ承テサラシト欲シテ工事ヲ施スカ如キ事ヲ爲スヘカラスト云フニ過キス此意ヲ表ハスニハ本案ノ如クハ水ノ自然ニ流レ來ルコトヲ妨グルコトヲ得スト曰フヲ以テ妥當トス

四、原文第二項ヲ削除シタルハ他ナシ是レ純然タル地役即チ既成法典ニ所謂ハ爲テハ、食定シタル地役ニ關スル規定ナルヲ以テナリ

第二百十五條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十五條第二項ニ同レ唯其本文ヲ削除シタルハ他ナシ 特ニ義務アリトコトヲ言ハサレハ義務ノモトコトハ言フヲ持タサレナリ

第二百十六條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十五條第一項ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ

一、原文ニハ低地ノ所有者ハ急害告發權ヲ行フコトヲ得レト云ヘルモ本案ハ於テハ之ヲ削レリ

其理由他ナレ財產編第二百一十一條ニ據レハ急害告發權行使場合ニ於テハ豫防處分ヲ爲サシムル等ノ外ニ既ニ生シタル損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ルモノトセルカ如シト雖モ本案ニ於テハ土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ流レ來ルコトヲ妨得スルヲ得サルモノトシ其結果トシテ水ノ自然ニ流レ來リタルカ爲メ損害ヲ生スルモ敢テ其賠償ヲ求ムルコトヲ得スシテ單ニ堤防等ノ修繕ヲ爲サシムルヲ得ルノミトセルカ故ニ既成法典ニ所謂急害告發權トハ稍其精神ノ異ニスルヲ以テナリ

二、原文ニハ低地ノ所有者ハ高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ修繕ヲ爲スコトヲ得ト云ヘルモ本案ニ於テハ隣地ノ所有者ヲ修繕ヲ爲サシムルヲ木間トシ若シ隣地ノ所有者ニシテ其義務ヲ盡ササルトキハ履行ノ方法トシテ債權者自ラ修繕ヲ行爲フ爲メ債務者ヲシテ其費用ヲ償ハシムルコトヲ債權編ニ於テ規定スヘレ

三、本條第一項本文ハ伊國民法ニ倣ヒテ之ヲ如ヘタルナリ蓋シ甲地ハ堤防ナキ爲ニ類リニ乙地ハ水害ヲ及ボスコトアラハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ堤防ノ設備ヲシタルコトヲ得ルハ當然ノコトナレハナリ

第二百十七條

(理由) 前二條ニ於テ費用ノ負擔者ヲ定メタルモ特別ノ慣習アルモノ例ヘハ甲乙兩地ノ所有者其費用ヲ分擔スル慣習アルトキノ如キハ其慣習ニ據ラシムルヲ便ナリトスルカ故ニ特ニ茲ニ本條ヲ設ケテ其旨ヲ明カニセリ伊西等ノ諸國ノ法律ヲ以テ其費用ヲ分擔スヘキ旨ヲ規定スレトモ是レ決シテ據做スヘキニアラス

第二百十八條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十六條ニ文字ノ修正ヲ加ヘタルノミ

第二百十九條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十九條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其要點ヲ列叙セシ

一、原文ニ溝渠、水流、堀割又ハ池沼ノ沿岸者ニハ、池沼ノ所有スル者ト云ヘルヲ本條ニ於テ溝渠ニ其他ノ水流地ノ所有者ト改メタルハ溝渠モ堀割モ皆水流ニシテ殊ニ渠ニテ堀割ノ意義ヲ有スルカ故ニ之ヲ列記スルハ聊カ重複ノ嫌ナキニ非ス且溝渠ノ水路ヲ變スルト云フハ頗ル奇異ノ想ヲキニ非ス又沿岸者ニシテ床地ノミヲ所有スルモ若シ其水流ヲモ併セテ所有スルニ非サレ

ハ本條ノ適用アルヘカラス是レ水流地ノ所有者ト改メタル所以ナリ

二、原文ニハ家用及ヒ農工業用ニ水ヲ使用スルコトヲ得ル旨ヲ明記セリト雖モ水流地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ自由ニ使用スルコトヲ得ルハ固ヨリ明矣待テサル所ナルヲ以テ本條ニ於テハ右ノ句ヲ省キタリ

三、原文第三項ヲ削除シタルハ他ナシ既ニ既成法典ニ沿岸者アルヲ改メテ水流地ノ所有者ト爲シタル以上ハ其所有者ガ苟モ漁業法令ニ反セザル限リハ自己ノ所有地ニ魚ヲ隨意ニ捕漁シ得ルコト言フヲ待タサレハナリ

四、原文第四項ノ如キハ外國ニモ其例ヲ聞カス本條ニ於テ之ヲ削除シタルハ他ナレ自己ノ所有地ヲ防護セシカ爲メニ之ニ工事ヲ施スハ所有者ノ當然爲レ得ヘキ事項ニシテ假令之カ爲メニ對岸所有者ニ損害ヲ齎スコトアルモ實ニ止ムヲ得サル所ナレハナリ若シ從來ノ慣習又ハ明約ニ因リテ水除ヲ禁ザサルコトアラハ是レ其地ニ純然タル地役アルモノト視ルヘクシテ宜シク地役ノ規定ニ從フヘキモノトス

五、本條第三項ヲ設ケタルハ此種ノ事項ニ關シテハ各地ニ種々ノ慣習アリ決シテ法律ヲ以テ之ヲ打破スルノ必要ヲ視サルヲ以テ法文ニハ單ニ一般ノ原則ヲ示シ之ニ異ナル慣習アルトナハ其慣習ニ據ラシムルヲ可ナリト信シタレハナリ

同編第二百二十七條ニハ泉源ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ關連シテ流ルヘキ餘水ヲ隣人

、與ハ、ハ、コトヲ得、ト云ヘリ外國ニモ其例尠カラズト雖モ荷ノ反對ノ規定ナキ言フヲ持タリル所ナルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ削除セリ但人爲ニ以テ地役ヲ設定スルコトヲ得ルハ後ノ規定ニ因リテ明ナルヘシ

同編第二百二十八條ヲ削除シタルハ、一町村又ハ一部落ノ住民ノ私有地ノ水ヲ使用スルコトヲ得ルヤ否ハ專ラ行政法令ノ定ムル所ニ依ルヘキモノト信スルヲ以テナリ

同編第二百三十條ヲ削除シタルハ他ナシ是レ或ハ法官ニ與フルニ過大ノ權限ヲ以テスルノ虞アリ且又此ノ如キ事項ハ民法ニ於テ規定スヘキモノニアラズト信シタレハナリ

同編第二百三十一條ハ地方廳ノ權限ヲ定メ官制ノ範圍ニ侵入スルノ嫌アルヲ以テ之ヲ削除セリ同編第二百三十三條ハ單ニ或事項ヲ行政法令ニ議ストノ規定ナルヲ以テ之ヲ掲グルノ要キモノトシテ削除セリ

第二百二十條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百二十四條及第二百三十五條ヲ併合シ之ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其修正ノ要點ヲ示サシ

一、原文第二百三十四條第一項ノ出水ハ陸通ノ爲メナル文字ヲ省キタルハ他ナシ本條ニ於テ既ニ浸水地ヲ乾カス爲メ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得トセル以上ハ荷モ浸水地ヲ乾カス爲メニスルモノナレハ出水ノ疏通爲メタルト何タルトハ問フ所ニアラサレハナリ

二、原文第二百三十五條第三項ヲ除キタルハ他ナシ本條ニ於テ低地ニ損害ノ少ナキ場所ヲ通過フヘキモノトセルハ故ニ實際ニハ建物ノ下又ハ住家ニ連接シタル庭園ヲ經テ水ヲ通過セシムルカ如キハ概テ許サリルコトトナルニ相違ナキモ若シ他ニ一切水ヲ通過セシムヘキ場所ナキニ於テハ低地ニ損害ノ最モ少ナキ方法ヲ以テ建物又ハ庭園ノ下ヲ通過セシムルコトヲ許シテ可ナリト信シタルヲ以テナリ

既成法典財産編第二百三十三條ニハ佛伊西ノ諸國ニ於ケルカ如ク自己ノ土地外ニ在ル天然又ハ人工ノ水ヲ用ユル權利ヲ有スル所有者ハ家用又ハ農工業用ノ爲メ僅金ヲ拂ヒ其水ヲ通過、中間ノ土地ニ要求スルコトヲ得、モモノトセリ少シク或土地ノ所有者ハ保護スルニ過キタル規定ト謂フヘシ此ノ如キ保護ヲ爲サストモ土地ノ所有者ハ公斷ヲ經テ其水ヲ汲ミ又ハ行政法令ノ規定ニ抵觸セサル限ハ水道ヲ設ケテ之ヲ引クコトヲ得ヘシ若シ又中間ノ私有地ヲ通過セシムルヲ便ナリトセハ其所有者ノ承諾ヲ經テ之ヲ通過セシムレバ即チ可ナリ其承諾ナキニ強ヒテ之ヲ通過セシムルノ權ヲ法律ニテ附與スルハ宜シラス是レ同條ヲ削除シタル所以ナリ

同編第二百三十六條ニハ水ノ通過ニ必要ナル工作物ノ築造及ハ保持ハ其工作物ニ付キ利益ヲ得ル所有者ハ費用ニテ之ヲ爲スト云ベレモ是レ當然言フヲ待タサル所ナルヲ以テ之ヲ削除セリ

第二百二十一條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百三十七條ニ些少ノ修正ヲ施シタルニ過キス其修正ハ同編第二百

三十三條ヲ削除シタル當然ノ結果ナリ

第二百二十二條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百二十八條ニ些少ノ修正ヲ施シタルニ過キス其修正ハ一ニ本條第一、二百十九條ノ修正ノ結果ナリ

第二百二十三條

(理由) 一、本條ハ既成法典財產編第二百三十九條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルニ過キス而シテ地方ノ慣習ニ從ヒタル文字ヲ省キタル所以ハ他ナレ別ニ條文ニ於テ其標示物ヲ限定スレテ單ニ「界」ヲ標示スヘキ物ト曰ヘハ自ラ慣習ニ從ヒテ其物ヲ定ムヘキコト勿論ニシテ特ニ之ヲ言フコトヲ要セス信シテレハナリ原文ニハ標示物ヲ樹石、柵、如キ物ニ限リト雖モ是レ或ハ狹隘ニ失スルノ恐れアルヲ以テ本案ハ此ノ如キ例舉ヲ爲サス又原文ノ如ク互ニ強要ハルコトヲ得ト曰ハシヨリハ寧ロ共同ノ費用ヲ以テ界ヲ標示スヘキ物ヲ設クルコトヲ得ト曰フヲ可トス權利アレハ強要スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ何レノ面ヨリ之ヲ記載スルモ其意味ニ於テ毫モ異ナル所ナカレハシト雖モ本案ノ規定ノ從來ノ方針ニ倣ヒ單ニ權利ノ存在ヲ明カニスルニ止ムルヲ宜シト信シテレヲ以テナリ

二、既成法典財產編第二百四十條ハ之ヲ削除セリ蓋シ建物ノ全テ相接スル場合ニ於テ其境壁自ラ界標ヲ成スカ故ニ別ニ界標ヲ設クルノ必要ナカレハ之ヲ設クルコト能ハサヲ常トスナリ、垣欄モ亦既ニ界標ヲ成スカ故ニ他ニ工事ヲ施スノ要ナキ言フヲ待タズ、公路公流ニテ隔テタ

ル土地ハ相隣地ニ非ズ故ニ本條ノ規定ヲ此場合ニ適用スヘカラサルハ亦疑フ容レザル所ナレハナリ

三、同編第二百四十一條第一項ニハ界訴權ノ時效ニ羅フサルコトヲ言ヒ其第一項ニハ土地ノ所有權又ハ占有ニ付キ爭フ生シタルトキハ先ツ其爭ヲ決シタル後界ヲ定ムヘキコトヲ言ヘリ既ニ本條ノ權利ヲ以テ地役ニ非ストモ以上ハ第一項ノ規定ニ當然言フヲ得ザル所ナリ(獨二章八三七)第二項ノ規定中取得時效ニ關スルコトハ事物當然ノ理ニ據リ然レモヘキノニシテ別ニ明文ヲ要セス所有權確定セサレハ其界ヲ定ムルヲ得ザルハ當然ノコトナレハナリ同項ニハ占有ニ付キ爭アルトキハ先ツ回復又ハ回収ノ訴ヲ爲スコトヲ要ストモ若レ所有權ニシテ既ニ明カナリトセハ其界ヲ定ムルカ爲メニ先ツ占有ノ爭ヲ決スルノ必要ナカレハ故、右ノ條文ハ全テ之ヲ削除セリ

四、同編第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ニハ所有權ノ爭及ヒ其證據ニ關スル規定ヲ設ケタリ是レ歐洲ニ於テハ沿革上界訴權ニ伴フヘキノトセリト雖モ其性質ヲ原ヌレハ兩者全ク別異ノモノニシテ所有權ノ爭及ヒ其證據モ他ノ權利ノ爭及ヒ其證據ト同レタ全ク民事訴訟法又ハ其附屬法ノ規定ニ依ルヘキノナリ殊ニ界限ノ證據ヲ作フレムルカ如キハ頗ル干渉ニ失スルノ嫌アルヲ以テ本案ニ於テハ右ノ二條ハ之ヲ全廢セリ

第二百二十四條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ其修正ハ蓋シ前數條ヲ修正改削シタル當然ノ結果ニ過キス

一、原文ニ保存ノ費用ヲ言ハサリシハ既成法典ハ樹石、柁、ヲ以テ界標ト爲スノ精神ナレハナリ然ルニ本案ニ於テハ標示物ノ制限ヲ設ケサルニヨリ往々障礙又ハ溝渠ヲ以テ界標ト爲スコトアルヘキヲ以テ保存ノ費用ニ關スル法律ノ規定ヲ必要ト信シテ之ヲ加ヘタリ

二、訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔スヘキコトハ訴訟法ノ通則ニ民訴七二特ニ茲ニ言フコトヲ要セスト信シテ削除セリ

界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ分擔スヘキモノナレトモ若シ相隣者一人ノ過失ニ因リテ此界標ノ毀壞シタルトキハ其過失者ノミ之カ修繕又ハ改置ノ費用ヲ負擔スヘキモノトスレ不正ノ損害ノ原則ヲ適用シタルモノニシテ本條ハ決シテ此原則ニ變例ヲ設ケルモノニアラス

第二百二十五條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十六條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルモノ

同編第二百四十五條ハ之ヲ削除セリ蓋シ所有者カ其所有地内ニ圍障ヲ設ケ得ルコト并ニ之カ爲ニ他ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルハ當然ナルヲ以テナリ

第二百二十六條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十七條第一項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルモノ
同編第二百四十八條ヲ削除シタルハ他ナレ既ニ本案第二百二十五條ニ於テ當事者ノ協議整ハサルトキハ云々ト曰ヘルヲ以テ新ニ圍障ヲ設置スルニハ先ヅ協議ヲ爲スヘキコト論ヲ跋ス協議ヲ爲スハ是レ相隣者ヲ連帶ニ付スル一方法ナリ又修繕ヲ爲スニハ必レモ協議ヲ要セス獨斷ニテ之ヲ爲相隣者ヲシテ其費用ヲ分擔セシメテ可ナルモノニシテ外國ニ於テモ修繕ノ協議ヲ要スルノ例アルヲ聞カサルナリ終版ノ草案ニハ連帶ニ附セシメテ設置ノ費用ヲ分擔セシムルコトヲ得シト明言シ修繕ノ費用ハ之ヲ分擔セシムルコトヲ得ヘシト明言シ其註釋ニ於テ明言セリ前版ニハ此ノ如ク明言ナクシテモ起草者ノ意ハ蓋シ終始同一ナルカ如シ

第二百二十七條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十七條第二項ニ一ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ原文ニハ保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ良好ナル材料ヲ用井又ハ高サヲ増シタル者ノ負擔ニ歸スヘキモノトセルヲ今之ヲ改メ其被格ノ圍障ヲ設ケルニ因リテ生スル費用ノ増額ノミヲ負擔スヘキモノトセリ是レ公平ヲ主トスルノ精神ニ出タルナリ

第二百二十八條

(理由) 前二條ニ於テ土地ノ所有者ニ圍障ヲ設ケルノ權アルコト圍障ノ種類及ヒ其設置保存ノ費用等ニ關シテ規定シタルモ是レ唯他ニ何等ノ慣習モナキ場合ニ適用スヘキ一般ノ原則ヲ示セルニ過キサ

(理由) 本案ハ既成法典財産編第二百四十九條及ヒ第二百五十條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ施コシタルモノナリ

ト雖モ木案ニ於テハ界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ニモ汎ク木條ノ規定ヲ適用スルコトトセリ草案ニハ木案ト同シク最モ汎ク規定シタリシニ確定法文ニ於テ改メテ之ヲ狹隘ニシタルハ頗ル解シ難

キコトナリ

二、原文ニハ反證ヲ許ス場合ヲ制限セルモ、本案ハ汎ク之ヲ許スノ主義ヲ採リ其結果トシテ第二百五十條ノ但書ヲ改メテ本條ノ如クセリ

三、同編第二百五十一條ニハ所謂非互有ノ推定ナルモノヲ設ケ外國ニモ其例ニ乏シカラスト雖モ此レ本案ニ於テ採用シタル自由探證ノ主義ニ反スル所ナルヲ以テ同條ハ之ヲ創除セリ

四、同編第二百五十三條ハ同第二百五十一條ヲ削除シタルノ結果トシテ當然削除スヘキモノトナル殊ニ既成法典ニハ毫毛互有ノ目標ニ關スルノ規定ナキヲ以テ茲ニ至リテ突然原文ノ如キ條文ヲ

設クルトキハ其意義頗ル解シ難キモノアラシ外國ニモ未タ原文ノ如キ規定アルヲ聞カス只伊國

民法第五百四十七條第三項ニ非互有ノ目標雙方ニ在ルトキハ共有ト看做スト言ヘルノミ

五、同編第二百五十四條及ヒ第二百五十五條第一項、第二項、第四項及ヒ第五項ヲ削除シタルハ他

ナシ此等ノ規定ハ或ハ共有物ノ修繕ノ費用ヲ分擔スルコトニ關シ或ハ之ヲ使用スル權利ノ範圍ニ關シテ共有ヨリ生スル當然ノ結果ヲ列舉セルニ過キサレハナリ本案ニ於テハ共有ノ事ハ他ノ

節ニ於テ之ヲ規定スヘク而シテ其詳細ニ至リテハ之ヲ慣習ニ一任スルコトトス

理由）本條ハ既決法典財産編第二百五十二條ニ殆ト文字ノ修正ノミヲ施シタルモノナリ其第二項ニ但書ヲ加ヘタルハ防火牆ハ其性質上雙方ノ建物ヨリ高キニ非サレハ其用ヲ爲シ難キヲ以テナ

理由）本條ハ既成法典財産編第二百五十五條第三項ニ文字ノ修正ヲ施シタルノミ

理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニナカリシヲ今伊西民法、白民法草案等ニ倣ヒテ之ヲ設ケタルナリ此
事タル蓋シ言フヲ待タサルカ如シト雖モ既ニ前條ニ於テ相關者ノ一人カ牆壁ノ高サヲ増スノ權利ヲ

有スルコトヲ認ムル以上ハ或ハ其權利ノ行使ニ因リテ生シタル損害ニ對シテハ債金ヲ拂フコトヲ要セスト曰フコトヲ得ヘキヲ以テ特ニ本條ヲ設クルヲ可トシタルナリ

第二百三十三條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百六十二條第四項ニ文字ノ修正ヲ加ヘタルノミ他ノ諸項ノ規定ハ專ラ慣習ニ依ルヘキモノトシ本條ニハ之ヲ掲ケス

第二百三十四條

(理由) 既成法典ハ諸外國ノ例ニ倣ヒ財産編第二百五十七條ニ於テ建物ニ付キ要界線ヨリ一定ノ距離ヲ存スヘキ慣習アルトキハ其慣習ニ從フヘキコトヲ規定レ之ヲ慣習ニ任シ去レリ是レ蓋シ此種ノ慣習ハ至ル所區々ニシテ到底法文ヲ以テ一定シ難シト思惟セルニ因ルモノナルヘレト雖モ時ドレデハ或ハ何等ノ慣習モ存セザル地方アリ或ハ其慣習ノ頗ル判然セザルモノモアリ此ノ如キ場合ニ應スルノ法文ナキトキハ實際上ノ不便甚ク時シテセズ現ニ既成法典ニ於テモ財産編第二百五十八條乃至第二百六十條ニハ窓及ヒ縁側ニ付キ一定ノ距離ヲ存スヘキコトヲ規定シタルニアラスヤ然レモ獨リ建物ニ關レテノミ一定ノ標準ヲ與ヘタルハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラス是レ本條第一項ヲ設クル所以ナリ

財産編第二百五十七條第三項ニハ單ニ一種ノ損害ノミヲ豫見シテ其價金ヲ要求セザルコトヲ規定セルモ本條ニ於テハ一切ノ損害ニ付キ之ヲ規定セリ蓋シ不正ノ損害ヲ受ケタル者ハ其損害ノ如何ナルモノタルヲ問ハス之ニ對シテ賠償ヲ要求セザルコト當然ナレバナリ又建築者手ノ時ヨリ一年ヲ經過シタル後モ亦損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得ルモノトシタルハ第二百一十條同一ノ精神ニ出テ

タルモノナリ

第二百三十五條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第二百五十八條乃至第二百六十條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ其重ナル點ヲ示サン

一、財産編第二百五十八條ニハ窓又ハ縁側ヲ設ケテ他人ノ所有地ニ直接ニ觀望スルコトヲ得ズトシ其所有地ノ宅地タルト又ハ畑地若ハ水田タルト區別シタルカ如クナルモ同編第二百六十條ノ規定ニ據レハ其適用ノ宅地ニ限レルコト明カナルヲ以テ窓初メヨリ宅地ト稱スルノ優レルニ若カスト信シ本條ニ於テハ之ヲ修正シテ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ云々トセリ而レテ苟クモ宅地タルニ於テハ其上ノ建築物ニ屬シテ存スルト否トハ之ノ間ハス總テ本條ノ規定ヲ適用スヘキコトトス是レ相關者アレテ成ヘク善隣ノ誼ヲ保シメント欲シタレハナリ

二、既成法典ニハ明取窓ト他ノ窓トヲ區別シ明取窓ニハ一定ノ條件ヲ具備スルニ於テハ目隠ヲ要セザルコトトセリ然レトモ既成法典ニ規定セルカ如キ條件ノ明取窓ニ要スルモノトスルニキハ大ニ明取ノ實ヲ失ヒ殆ント其用ヲ爲ササル場合多ク生ズヘキ故ニ本條ハ此ノ如キ區別ヲ設ケス單ニ其物ノ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキモノナルヤ否ヤヲ區別シ若シ之レヲ觀望スヘキモノタルニ於

テハ總テ目隠ヲ附スルコトヲ必要トシタリ

第二百三十六條

(理由) 既ニ説明シタル如ク建物ノ築造觀望及ヒ明取窓ニ關スル規定ハ只一定ノ慣習ナキ場合ニ應スルノ規定ニシテ決シテ之ヲ以テ慣習ヲ打破スルノ精神ニ依ラス以下ニ條ノ規定ト其趣ヲ異ニス

第二百三十七條

(理由) 本條ハ既成法典附屬編第二百六十一條第一項乃至第二項ニ左ノ修正ヲ加ヘタリ

一、地畝ハ適當距離ナリ覆蓋ナキモ水溜ニ比スレハ危險少キヲ以テ總テ其距離ヲ二尺トセシ
二、厠坑ハ從來疆界線ニ接シテ之ヲ穿ツコト多シ俄カニ改メテ其距離ヲ六尺トスルハ著シク慣習ニ悖リ人民ニ非常ノ不便ヲ來スノ虞アルヲ以テ之ヲ三尺トセリ而シテ肥料溜ニ至リテハ用水溜及ヒ下水溜ト等シテ其距離ヲ六尺トスヘキモノト信シテ之ヲ厠坑ト區別シタリ
三、原文ニハ石樋ニ付テノ規定セリト雖モ水樋陶樋等ハ總テ一層危險ニシテ又損害ヲ生スルハ虞多キヲ以テ單ニ水樋ト曰ヒ以テ其材料ヲ區別セサルコトセリ

第二百三十八條

(理由) 本條ハ既成法典附屬編第二百六十一條第一項但書及ヒ第四項ヲ以テ一條ト爲シタルナリ蓋シ規定ニ範圍ヲ汎クシテ一切ノ場合ニ適合スヘキモノト爲スヲ必要トシタレハナリ

同編第二百六十三條ヲ削除シタルハ此等ノ工事ニ付テノ規定ハ大ニ公益ニ關スルカ故ニ強制的ノ執行スヘキモノニシテ決シテ慣習ニ一任スヘキモノニアラザレハナリ

同編第二百六十四條ハ無用ノ規定ナルヲ以テ之ヲ削除セリ

第二節 所有權ノ取得

(理由) 既成法典ニハ財産取得編ナル一編ヲ設ケ其中ニ物權及ヒ債權ノ取得ノ共通ナル規定アリ又所有權若クハ債權ノ取得ニ關スル規定アリト雖モ本案ニ於テハ財産取得ニ關シテ特ニ一編ヲ設ケサルヲ以テ此點ニ付テハ自ラ既成法典ト其體裁ヲ異ニセサルコトヲ得ス即チ物權取得ノ通則ハ本編第一章ニ於テ之ヲ規定シ或物權ノ取得ニ特別ナル規定ハ本編第二章以下ニ於テ之ヲ掲ケタリ而シテ債權ノ取得ニ關スル規定ハ之ヲ第三編中ニ掲ケタルコトセリ

本節ハ即チ此方針ニ基キ所有權取得ノ方法ヲ規定シタルモノナリ尤モ所有權取得ノ場合ハ本節ノ外ニ其規定ナキ非スト雖モ他ノ條項中ニ於テ規定スルコト至當トスヘキモノハ之ヲ省キ此ニハ自ラ特種ノ性質ヲ有スルモノノミヲ規定セリ

既成法典ニ於テハ本節中ニ掲ケル所有權ヲ取得ノ方法ニ特別ノ名稱ヲ附シ各々章ヲ分チテ之ニ干スル規定ヲ掲ケタリト雖モ本案ニ於テハ其必要ヲ認メサルヲ以テ總テ之ヲ附レリ蓋其條數多カラサルト遺失物及ヒ埋藏物ニ干スル細則ハ行政上ノ便宜ヲ計リテ之ヲ特別法ニ讓リシトヲ欲シタレハナリ

左ニ既成法典中ニ於テ削除シタル條文及ヒ其削除ノ理由ヲ説明スヘシ

財産取得編第二條第一項ノ規定ハ狩獵捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム可キコトヲ示シタルヲテ放テ之ヲ明文ニ記載スルノ必要ナカレバ又其第二項ノ如キ